

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2015.3.20

34

春期企画展

梨本宮妃絵はがきコレクション

— 日仏絵はがきに描かれた近代の表象 —



会期

平成27年3月14日(土)~5月6日(水・休)

時間

午前10時~午後5時

会場

北区飛鳥山博物館 特別展示室・ホワイエ

休館日

毎週月曜(5月4日を除く)

入場
無料

梨本宮妃絵はがきコレクション —日仏絵はがきに描かれた近代の表象—

このたび北区飛鳥山博物館では、「梨本宮妃絵はがきコレクション—日仏絵はがきに描かれた近代の表象—」を開催するはこびとなりました。

近年、歴史学研究の多面化にともない、近代に作製された絵はがきの持つ歴史資料性は、当時の表象文化を直接に示すものとして高く認識され、絵はがきに描かれた表象文化の調査研究の必要性は、ますます高まっております。

本企画展は、青梅きもの博物館所蔵の梨本宮家関連資料の中から、明治42年(1909)に行われたヨーロッパ各国歴訪時に、梨本宮妃伊都子殿下が蒐集した絵はがきを中心に、描かれた欧州各地の都市生活、パリのモード、フランスから見た日露戦争、そして同時代の東京の生活文化を示す絵はがき、また梨本宮守正王・伊都子妃両殿下ご着用の衣冠・五衣小桂などの貴重な皇室衣装、約260点の資料からご紹介するものです。

展示にあたりまして、貴重な資料を所蔵する、青梅きもの博物館からは多大のご理解・ご協力を賜りました。ここに謝意を表し、篤く御礼を申し上げます。



梨本宮伊都子妃

展示構成

- 1 梨本宮と伊都子妃
- 2 華麗なる皇室衣装の世界
- 3 1909年、欧州歴訪の旅
- 4 ベル・エポックのパリ:都市とモード
- 5 表象の中の戦争:日露戦争絵はがきの世界
- 6 絵はがきにみる東京:その日、その時

企画展開催記念講演会

「フランスの梨本宮妃と昭和天皇」

日時 4月19日(日)午後2時~3時
 会場 北区飛鳥山博物館講堂
 講師 小田部雄次 氏(静岡福祉大学教授)
 定員 80名(抽選)
 費用 無料
 申込 下記参照

「梨本宮家と皇室衣装」

日時 4月29日(水・祝)午後2時~3時
 会場 北区飛鳥山博物館講堂
 講師 鈴木啓三 氏(青梅きもの博物館副館長)
 定員 80名(抽選)
 費用 無料
 申込 下記参照

いずれも、往復はがきに「ご希望の講演会名・氏名(フリガナも記入)・住所・性別・年齢・電話番号」を明記のうえ、当館までお送りください【4月3日(金)必着】。

宛先・お問い合わせ

〒114-0002 北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館
 TEL:03-3916-1133 FAX:03-3916-5900

VOICE 皆様の心が支える博物館

「アンケートが読まれていることを知って驚きました」というお手紙を当館で職場体験を行った中学生からいただきました。おっしゃるとおり、皆様からのアンケートは一枚一枚じっくりと拝読しています。そのお言葉に一喜一憂しつつ、各々が集計を行いながら反省をし、参考にさせていただいています。

博物館の教育普及活動のメインである展示や講座の成功は何を基準に決めるのか、皆様はどのようにお考えになりますか。展示ならば入場者数、講座ならば応募者数や参加者数でしょうか。それらは確かにひとつの指標にはなります。しかし、入場者数や応募者数の少ない事業が大きな成果を上げる場合もあり

ます。また、歴史や文化の普及ひいては継承につながりうる事業を、その時の認識のみで評価できるものでもありません。

このように展示や講座の良し悪しは、一概に決められるものではありませんが、地域博物館として最も大切にしているのは、実は観覧や参加をしてくださったお客様の声です。帰路に就く際のお客様の表情、お言葉、そしてアンケートです。楽しまれたご様子に喜びとやりがいを感じ、ご指摘を真摯に受け止め、予算や人員、資料保存環境の許す範囲で改善に努めています。皆様の声と心によって博物館は支えられているのです。(増田)

古代の焼けた米

中島広顕（当館学芸員）

大地
水
人

平成8年(1996)、大蔵省印刷局滝野川工場(現 国立印刷局東京工場)構内から焼けた米が出土しました。総重量52kgでしたが炭化しているので実際の米では約240kgを量ります。顕微鏡で観察すると、すべてイネの胚乳で脱穀された穀稲でした。籾粒の計測値から短粒型の平均的な古代米であることもわかりました。出土地点は、奈良・平安時代に造営された武蔵国豊島郡の役所、豊島郡衙の正倉院跡です。正倉院は、正倉と呼ばれる倉庫が建ち並ぶ一院(ブロック)で本来、各地の郡衙などにあった普通名詞でした。ところが各地の正倉院が無くなり、有名な東大寺だけが残り固有名詞になったものです。大化の改新を経て大和朝廷は本格的に律令制を導入し、中央集権国家の体制づくりに着手しました。土地と人民は戸籍の整備によって国家管理になり、人々には班田収授法により田地(口分田)などが付与され、田租と呼ばれる租税が賦課されました。つまり田租は律令国家の根幹となる財源でした。全国の郡衙正倉には収税された田租が蓄えられました。また、田租の収納には稲を刈取り束ねた稲穂の穎稲と、穎稲を脱穀した穀稲の2通りがあり、大部分は穀稲にして貯蔵されました。それは、穀稲の方が長期貯蔵に適し、同じ容積で穎稲の3倍の量を効率的に収蔵できたからでした。穀稲の収納方法は、倉底に穎稲を5寸の厚さに敷き、その上から穀稲をバラ積みするもので、穀倉を一種の米櫃とみなせます。出土した炭火米は、穀倉が火災で焼失し、まとめて棄てたものだったのでしょう。

豊島郡衙の正倉は3×3間の総柱高床倉庫が圧倒的に多く、6.3m四方で約40㎡、24畳分の床面積を有するものでした。当館では常設展示の入口に原寸復元した正倉建物をご覧になれますが、実際の収納穀量について試算して



みました。収納穀量の算出方法は倉の内法面積×穀の積高で計算され、先学によれば2,800立方寸をもって1斛に換算されます。すなわち1斛は14.1寸(42.3cm)の立方体で、量ってみますと穀稲の容量にして約60kgでした。復元正倉の内法に200~250cmの積高を乗じると1000~1300斛、60~78トンの穀量を想定することができました。

平成22年(2010)に奈良の平城宮東方官衙から「豊嶋郡大領大伴直宮足書」と判読できる木簡が発見され、『続日本紀』神亀元年(724)二月壬子条に登場する下級官人と一致しました。この人物には同年に創建した陸奥国府多賀城の兵営に、穀稲を献上した功績で貴族に準ずる官位が授けられました。「大領」とは郡を治めていた郡司の官職名で長官にあたります。実に11階級も特進し、地方出身者としてはトップクラスまで大出世した「大伴直宮足」は武蔵国豊島郡司であり、郡衙造営に尽力した中心人物でした。郡衙が立地する武蔵野台地の眼下には東京低地が広がり、何千斛もの穀稲は多賀城へ舟運を利用して運搬されたことも想像に難くありません。そして、律令制の崩壊とともに田租は年貢へと変質しますが、米を税として納める制度は、明治6年(1873)の地租改正法が公布されるまで1200年近く続きました。

あるく・みる・きく

「親子でご近所探検隊！ 稲付編」

北区を歩いていると、建物の建て替えや道路工事などで町の景観がどんどん変わっていくことを実感します。新しい建物の前で、「この間まではどんな風景だったっけ?」と、なかなか思い出せないこともしばしばです。

日々変化している町並みの中にも、チラホラと、かつての町の名残が顔を出しています。それらを見つけながら町を歩いて、その地域の歴史や暮らしの様子について解説する野外講座「ご近所探検隊!」

シリーズを、平成26年(2014)の春からスタートしました。このシリーズは、小学生から家族で参加できるようになっています。初回は、サクラソウの咲く4月に「浮間編」を開催し、浮間ヶ原桜草保存会の方に話をうかがったり、水塚の高さを測ったりしながら探検しました。夏には「王子編」、秋には「稲付編」、冬には「十条編①」を開催しました。今回は「稲付編」(10月26日(日)開催)から、講座の様子をご紹介します。

午後3時、稲付城本丸推定地へ、
みんなでゴール!



⑦「太田道灌ゆかりの静勝寺」
かつての稲付城。毎月26日には太田道灌坐像が拝観できます。

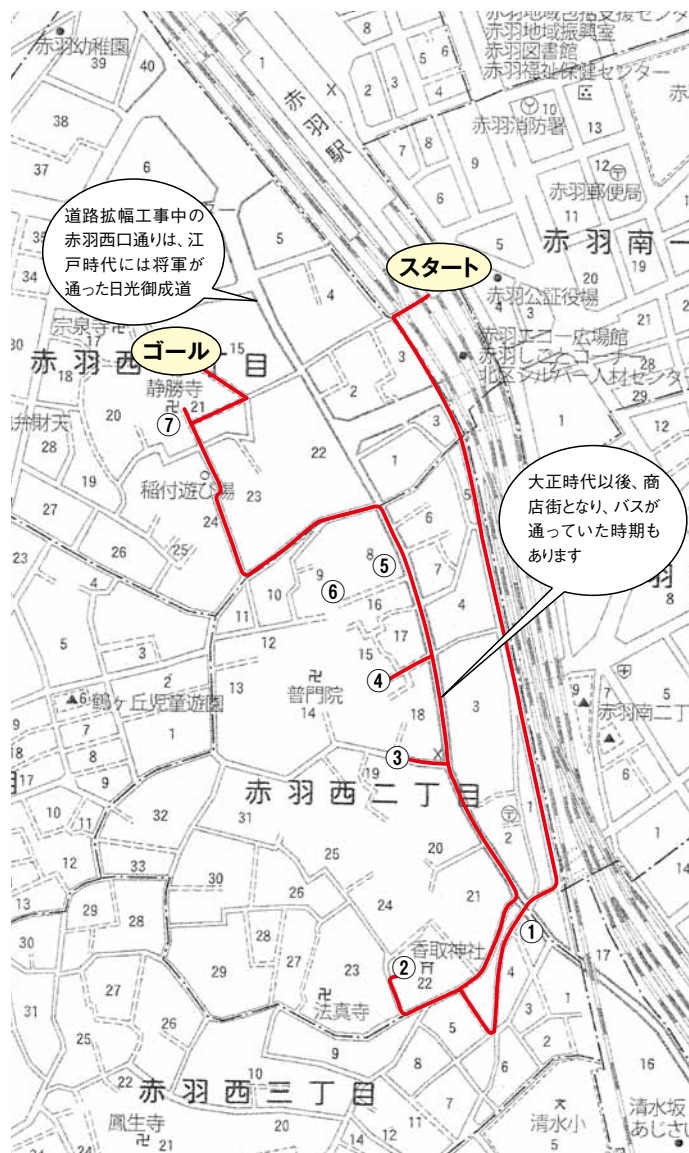
⑥「防空壕跡」
崖下に横穴式の防空壕がありました。(現在見学不可)

⑤「稲付の一里塚跡」
日光御成道2つ目の一里塚。現存せず残念!



④「道観山稲荷」
2月の初午には「稲付の餅搗き唄」を開催します。

博物館の中で収蔵している資料だけでなく、町中にあるものを調査し、その歴史や文化を伝えていくのも学芸員の仕事です。様々な調査をするなかで、地域の方から面白いエピソードをうかがったり、昔の写真を見せていただいたりすることもしばしばです。講座を通して、



午後1時、JR赤羽駅南改札口
からスタート!



①「稲付川跡」
稲付が農村だった頃を伝える用水跡が暗渠になっています。



②「香取神社」
稲付村の鎮守でした。「小林先生頌功之碑」や力石が見られます。



③「真正寺坂の庚申塔」
道標を兼ねた庚申塔。台座には3匹の猿が!

それらを皆さんにもお伝えしていきたいと思います。

平成27年度も「ご近所探検隊!」が出動します。春には六阿弥陀詣にちなんで豊島編を、夏には十条②・神谷編を開催します。一緒に「ご近所探検」してみませんか?(田中)

「名所物語 浮世絵にみる北区の近代」を振り返って

Event Report

当館では、昨秋10月28日(火)から12月14日(日)を会期として、地域の名所に関わる近代の表象世界をご紹介する展示を開催しました。総点数116点に及ぶ貴重な浮世絵資料を列品することができたのも、コレクター・伊藤紀之氏のご協力を頂いたことによります。

本企画展では、近世の名所が近代化によってどのように変容したのかという課題を、豊富な資料によって明治初年から現代に至る変遷をたどる試みであり、まず冒頭の第一章「江戸の揺曳」では、近世と近代の名所の景物の、連続面を確認しました。続く第二章「文明開化と地域の変貌」では明治初年以來の地域の工業化の流れや、鉄道敷設による名所の変化・変貌の姿を追いました。第三章「小林清親・井上安治 抒情の光景」では光線画の诗情あふれる世界を、さらに第四章「さまざまな技法と表現のひろがり」では、石版画を中心

に緻密な写実の表現をご紹介致しました。最後の第五章「新版画・創作版画の試みと地域像」では、作家性の高い版画芸術の世界を、川瀬巴水、高橋松亭、織田一麿、平塚運一などの作品からたどるという構成をとりました。

展示に際しては新しい試みとして紫外線カット・アクリルフレームによる列品を行い、また当館では初めて特別展示室全体をLED照明に変えました。

おかげさまで会期中多数のご来場を頂き、概ね好評を頂くことができて担当としてほっとしております。(石倉)



王子稲荷 高橋松亭

ちょっと耳より情報！ 学芸員の研究室から



まもなく開催 スポット展示「赤レンガと酒づくりー醸造試験所と北区の醸造業ー」

平成26年(2014)12月、滝野川2丁目に所在する「旧醸造試験所第一工場」が国の重要文化財(建造物)に指定されました。醸造試験所は日本酒の醸造方法の研究や普及を目的に設立された国立の研究機関です。指定された煉瓦造の旧第一工場棟は、建築家の妻木頼黄つぐみよりなぐがドイツのビール工場や日本の酒蔵を参考に設計した建物です。製麹室せいこうしつや貯蔵室など酒造りに必要な設備はもちろん、四季を通じた醸造が行えるように外国製の空調設備なども備えられていました。

醸造試験所が設立された背景には、国の財政との密接なかわりがありました。実は、当時、国税の主要な税収のひとつが酒税でした。経験などに基づいて行われてきた日本酒醸造を科学的に研究し、その成果を普及することは、日本酒の増産を図り、安定した税収を確保することに繋がります。このようなことから、日本酒醸造研究の必要性が認められ醸造試験所が設立されました。

重要文化財の指定理由にも、煉瓦造建造物としての価値だけでなく、日本酒造りの近代化と酒類産業の発展に大きな貢献をした施設であることが高く評価されています。

今回の展示では、重要文化財に指定された建物の紹介だけでなく、醸造試験所の果たした役割や近代醸造と財政のかわりなどをご紹介します。また、北区内の醸造業の様子をご紹介します。区内での日本酒の醸造や販売についてもお伝えします。(山口)



旧醸造試験所 第一工場外観



『地理局樹木試験場 樹木見本一覽』

展示大項目「東京近郊の野菜と種苗」の内、中項目「西ヶ原と農事試験場」には、時代を経て色褪せ古ぼけた小冊子状の資料が収蔵展示されています。

明治維新を迎え北区の地域には官立機関が立地するようになりますが、明治10年(1877)12月西ヶ原に内務省地理局により樹木試験場が開かれました。これは現林野庁に属する独立行政法人森林総合研究所の前身で本邦初の林業の試験研究機関です。創設には長州出身の人物が深く関わりました。名を松野燾(1847-1908)といい明治初年北白川宮のドイツ留学に随行し邦人で初めて森林アカデミーに学びました。滞独中岩倉遣欧使節団員の久保利通に知遇を得て帰国後内務省地理寮雇となり、山林行政に辣腕を揮い山林学校の設置を目指します。

資料は152×92mmで、29列最大15行に及ぶ見本園の区画略図が添付され、園内に植えられた樹木の和名・漢名・洋名・種類・用途等が伊呂波順で200種以上28ページ活版印刷されています。見返しには朱で「内務省地理局蔵版印」と方印が押され、奥付には「明治十二年四月六日出板地理局蔵版」「定價三錢五厘」と印字

されています。旧蔵者の榎本仁一家はかつて園芸に力を注いだ中十条の農家でしたが、樹木試験場に行く機会があったのでしょうか。

明治14年(1881)4月樹木試験場は農商務省山林局に移管し同局試験場となり翌1月には松野念願の東京山林学校が併設されます。同局では明治33年(1900)6月目黒に新しく用地を求め見本園内の樹木を全て移し明治38年(1905)11月林業試験場として新たに発足し場長に松野が就きました。樹木試験場の資料では当館には他に『日本樹木誌』(明治11年(1878)1月発行)があります。(中野)



写真に見る あの日あの時

ホームから見た赤羽の街

この写真は昭和20年代後半に撮られた赤羽の街の風景です。左奥にカトリック赤羽教会がみえるので、赤羽駅の東口方面だということがわかります。おそらく現在の京浜東北線のホームの一番北寄りから撮られたものです。昔は駅から教会がしっかりと見えたのですね。正面の教会へ進む道の右側に“レコード”の文字がみえますが、これは今でも続くレコード店「詩音堂」のかつての店舗です。

写真に写った赤羽の街はとっても空が広く、今の赤羽との大きなギャップに驚きを感じますね。そう、驚きといえば“大竹のウドンキ”のお店の前に荷車がありますが、その前になにやら黒い物体が……。そう、これは馬が桶に首を突っ込んでいるのです。昭和20年代後半でも、まだ馬が運搬用に使われていたのですね。荷車に並ぶ桶は

おそらく肥桶と思われます。広い空といい、馬といい、なんだかのどかな時代を感じさせてくれますね。(鈴木)





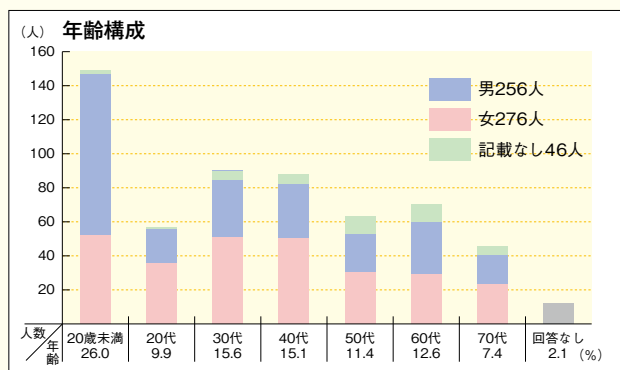
博物館インフォメーション



教えて! あなたの好きな常設展示資料

昨年に常設展示アンケートを実施し、常設展示資料の中で一番好きな資料にご投票いただきました。今回は、特典として「オリジナルコン吉ラムネ菓子」をプレゼントしたこともあってか、小さなお子様にも多くご投票いただきました。ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。[複数回答あり・全投票数675(アンケート回収総数578)]

- 第1位 花見弁当……………174票(25.8%)
- 第2位 中里貝塚の剥ぎ取り標本 ……104票(15.4%)
- 第3位 浮世絵…………… 96票(14.2%)



江戸時代の花見弁当

開館以来、江戸の食文化を今に伝える花見弁当のレプリカ。これは19世紀初めの料理本『料理早指南』に収録された花見弁当を、再現料理研究の第一人者・奥村彪生氏(元神戸山手女子大学教授)に復元して頂いたものです。食材や製法などの一つ一つに、研究の目が注がれています。まだまだ料理の詰め方等に検討が必要な点もありますが、文献資料だけでは分からない花見弁当の姿や、花見の雰囲気を感じとって頂けますならば幸いです。



花見弁当の展示

「北区ふるさと農家体験館」が開館10周年を迎えます!

赤羽自然観察公園内に移築・復原された旧松澤家住宅[北区指定有形文化財(建造物)]が、体験学習施設「北区ふるさと農家体験館」としてオープンしてから本年4月17日で10周年を迎えます。今後、関連イベントを開催する予定です。どうぞお楽しみに。



北区ふるさと農家体験館

※赤羽自然観察公園
北区赤羽5-2-34

常設展示をみて

- ・実はあまり期待していなかったのですが、とてもよかったです。音声案内(音声ガイド)もあってよくわかりました。(江東区・50代女性)
⇒当館では音声ガイドを無料で貸し出しています。みなさまぜひご利用を。
- ・映像モニターに字幕をぜひ入れてください。※耳が不自由な方のご意見(横浜市・60代男性)
⇒多くの方が楽しんでいただけるように、工夫をしていきたいと思えます。
- ・(金輪寺御座所のシアターをみて)江戸時代の芝居が始まるみたいでワクワクしました。(豊島区・30代女性)
⇒幕が開くとワクワクしますよね! 3本の映像、楽しんでいただけましたでしょうか?
- ・(荒川の生態系コーナーのジオラマにて)モグラを発見した時、テンションあがりました!(区内・20歳未満女性)
⇒意外なところにありますよね! みなさまも探してみてください。
- ・もう少し明るいと良いかと…。(区内・60代性別なし)
⇒展示資料の中には光にとっても弱いものもあります。特に浮世絵は色が退色してしまいます。ご理解のほどよろしく願っています。
- ・子供もわかりやすいと喜んでいました。(和光市・40代男性)
⇒大きくなって、また来てほしいです。
- ・意外とおもしろい、為になる、勉強になる、趣ある。(区内・50代男性)
⇒楽しんでいただけると何よりです。
- ・リピーターが増えるような企画があるとうれしい。(区内・30代女性)
⇒常設展示室を会場に「サロン講座」を年10回ほど行っています。展示資料を詳しく解説しますので、ぜひご参加を。
- ・歴史にあまり興味はないが、こういう展示ならまた来てみたい。(区内・40代女性)
⇒次回にお越しの際は、ぜひご家族・お仲間!
- ・もっと多くの人に知ってもらえる方法を考えて頂いた方がよいと思います。(中野区・60代女性)
⇒みなさまに知っていただけるよう、さまざまな方法を使って努力していきたいと思っています。

※実施期間:平成26年10月4日(土)~11月15日(土)。
※アンケートの集計作業には、職場体験として稲付中学校2年生4人・十条富士見中学校2年生3人にお手伝いいただきました。

外国語版「常設展示案内」の冊子を発行しました!

近年、外国からのお客様も多くお越しいただけるようになったことを鑑みて、今回新たに英語・フランス語・中国語・韓国語の4か国語で、常設展示を案内する冊子を発行しました。

ミュージアム・ショップに新顔登場!

新商品のポケット・ノート「江戸自慢三十六興(王子稲荷初午)」は、絵はがきとして使える表紙に50枚綴りのメモ帳がついて、1冊100円で好評発売中です!

北区の昔を伝える資料や写真を探しています!

当館では、地域で使われていた生活用具や古い写真など、昔の暮らしぶりがわかる資料を探しています。お心当たりのある方は、ぜひご一報ください(電話03-3916-1133)。

【春】3~6月

<展示>

- 春期企画展「梨本宮妃繪はがきコレクションー日仏繪はがきに描かれた近代の表象ー」(3/14~5/6)
- ・講演会「フランスの梨本宮妃と昭和天皇」(4/19)
- ・講演会「梨本宮家と皇室衣装」(4/29)
- テーマ展示「オボエテマスか?ーあの暮らしの道具ー」(3/14~6/21)
- スポット展示「赤レンガと酒づくりー醸造試験所と北区の醸造集ー」(5/23~6/21)

<講座>

- 座学
 - ・中世熊野と北区(4/12)
 - ・サロン講座 北区モノ語り①「江戸の行楽弁当」(5/9)
 - ・北区と江戸の文人①ー戸田茂睡の見た金輪寺ー(5/24)
 - ・江戸時代の教科書をよむ①(5/31)
 - ・へんたい、かな倶楽部〜17世紀の書物「江戸名所記」を中心に〜(6/7・21)
 - ・サロン講座 北区モノ語り②「水塚と用心船ー低地の生活を想う」(6/13)
 - ・北区と江戸の文人②ー大田南畝の見た金輪寺ー(6/27)
- 野外講座
 - ・北区の近代産業遺産を巡る(4/18)
 - ・ご近所歴史探検隊! 豊島編(4/26)
 - ・北区遺跡学講座2015① 赤羽台遺跡(5/10)
 - ・新緑の日光御成道を江戸に向かう(5/16)
 - ・歩く勉強会「市場をめざして〜農産物の運搬ルートをたどる」(5/23)
 - ・飛鳥山3つの博物館合同企画「歴史発見! 街めぐり」(5/30)
 - ・北区遺跡学講座2015② 飛鳥山遺跡(6/14)
 - ・お富士さんへ行こう! 北区近郊富士塚めぐり(6/30)

【夏】7~9月

<展示>

- 自由研究対応展示「トキどき縄文体験ー密着! 縄文人のくらしー」(7/18~8/30)
- 特別展覧会「第14回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9月中旬~10月中旬)

<イベント>

- 「夏休みわくわくミュージアム☆2015」(7/18~8/30)
 - ・地下鉄/都電車庫見学会
 - ・土器/勾玉づくり教室
 - ・チャレンジ! 昔の手仕事〜藍染 ほか全13講座

<講座>

- 座学
 - ・第26回新聞から読む考古学ー2015年上半期を振り返るー(7/12)
 - ・サロン講座 北区モノ語り③「祭礼の変遷〜王子田楽〜」(7/18)
 - ・江戸ビジュアル講座 浮世絵に見る王子の光景(7/19)
 - ・サロン講座 北区モノ語り④「旧石器時代の道具」(8/22)
 - ・江戸の教科書をよむ②(8/23)
 - ・へんたい、かな倶楽部〜17世紀の書物「江戸名所記」を中心に〜(8/30・9/12)
 - ・サロン講座 北区モノ語り⑤「縄文時代のアクセサリー」(9/5)
- 野外講座
 - ・ご近所歴史探検隊! 十条②・神谷編(7/25)

※催し物は仮称のものも含まれます。()内の実施日は予定です。詳細は、当館発行の催し物案内、北区ニュース、ホームページをご覧ください。

お知らせ

館内消毒にともなう臨時休館

収蔵資料を虫害やカビから守る燻蒸(くんじょう/殺虫・殺菌処理)にともない、7月7日(火)~7月10日(金)まで臨時休館とさせていただきます。詳細な日程は、北区ニュース、北区公式HP等でお知らせいたします。何とぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

北区飛鳥山博物館だより

ばいす34

発行日 平成27年3月20日
 編集・発行 北区飛鳥山博物館
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
 TEL. 03-3916-1133
 印刷 東京リスマチック株式会社

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

「普段は博物館にあまり行かないけれど、旅先ではよく足を運ぶ」という方は多いと思います。博物館は生涯学習の場である一方、観光の目的地でもあります。地域博物館である当館でも来館者の約半数は区外在住、うち1~2割は東京都以外の方という結果が出ています。

さらに、近年は外国の方々のご来館も少しずつ増えてきたようです。当館の常設展示では日本語のほか英語・中国語・韓国語による音声ガイドを提供していますが、今春からは英・仏・中・韓国語の4カ国語で常設展示案内の冊子を用意して「おもてなし」の態勢を整えています。

とはいえ、来館者に最初に接するのはやはり受付。受付のスタッフで対応が難しい場合は、学芸員など職員にSOSが入ります。学芸員ならば数カ国語は堪能...でありたいのですが、残念ながら当館の場合は乏しい表現力と熱意で乗り切るしかなく、語学力は差し迫った課題です。

昨年は訪日外国人旅行者が1300万人を超え、2020年の東京オリンピックに向けてさらなる増加が見込まれています。多くの博物館が外国語による解説パネルなど対応を始めていますが、人と人との対応も大切にしながら、誰にでも開かれた博物館づくりを進めていきたいものです。(久保望)

のろろと慣れぬ英語で汗たらり

利用のご案内

【開館時間】

午前10時から午後5時
 ※観覧券の発行は午後4時30分まで。

【休館日】

毎週月曜日
 (月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)

年末年始(12月28日~1月4日)
 このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者(65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円



- ・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・都電荒川線 飛鳥山停留場より徒歩4分
- ・都バス 草64、王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・北区コミュニティバス 飛鳥山公園停留所より徒歩1分
- ※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

編集後記

冬が寒ければ寒いほど、その年の桜は色鮮やかに咲くのだとか。それは展示や講座の準備も一緒かもしれません。苦しみ抜いた準備作業が終わった後のお客様の笑顔といたら、何にも代えがたいものがあります。当館では、平成27年度もたくさんの催し物をご用意して、みなさまのご来館をお待ちしております。(安武)